

クマに注意？

*月*日(日)は、札幌市内の藻岩山(523m)を登りました。
ちょうど、東京の「高尾山」をイメージしていただけると分かりやすいです。
ケーブルカーとゴンドラでだれでも山頂へ立てるという便利さがあるのですが、山自体は太古の原生林がそのまま保存されています。
ハイキングルートも5つのバリエーションがあり、それぞれが自然の変化に富んでいます。
今回は、私も5回目だったので、一番マイナーなルートを選択。
札幌市内の山は、ほとんどが広葉樹林帯なので、明るいです。
大体登山道口には、写真のような注意書きが掲げられています。



「クマに注意～」

そんなことで、今回は私も大きな鈴も用意しました。
ところで、「クマに注意～」は、東京近郊の低山でも時々見かけます。

本州のクマは「ツキノワグマ」が大半ですが、北海道はそれより一回り大きい「ヒグマ」です。

どちらも、体の割には「臆病で神経質」な性格のようです。
そのため、クマの方も「なるべく人間に出会わない」ようにしているらしい。

搦って、ラジオを鳴らしたり、鈴の音で「人間の存在」を知らせるようにします。



実際、ハイカーが登山道でクマに遭遇する確率は、かなり低くて(たぶん0.01%以下=筆者)、そんなに心配する必要はないのかもしれない。

ただ、遭遇した時は、やはり怖い。

「逃げずに、正面を向いたまま、ゆっくりあとずさりする、なんて言われても実際そのようにできるのか。

今年は「クマの当たり年」？。

山に、クマの餌が少なくなってきた、そのため「山里」へ降りてくるのでしょうか。

新聞等の報道では、ハイキングよりも「山菜取り」の年配者が事故に合っているようです。

時々、市街の山麓部にクマが現れて、哀れ「射殺」される運命に合っています。

本来は、クマの領域に人間が入り込んだのが原因なのでしょうから、余りクマを憎み嫌うのは本末転倒かもしれません、

「共存」という意味でも、なるべくクマには遭遇しないように～。